

道徳だより



テーマ2：大事なことを落とさない授業をするためには？

京都市道徳教育研究会
会長 近藤 清美
広報部長 保本 貴之
副部長 宮田 勝行

目標に「よりよく生きるための道徳性を養う」とあるものの、「道徳性」は家庭や身近な人などの「環境」に大きく影響されることは前回確認をしました。ともすれば、我々の「道徳性」も、児童と同じく家庭や身近な人という「これまでの環境」によって、各々異なっている可能性がある…と言えます。A先生は「□□は☆が大事だよ」と言い、B先生は「□□は△を大切にしなければいけない」…、各々の先生の培ってきた「道徳性」に沿って授業をすると…悪くはないのですが、公教育として「客観性」が乏しくなってしまうかもしれません。また子どもの思考が混乱してしまう状況が生じるかもしれません。算数科「かけ算」、「 2×2 は…4だね」まで及ばないとしても、道徳科でも、誰もが「そうだよなぁ」と納得できるもの（納得解）を目指して授業をする必要があります。それらが示されているのが「学習指導要領 解説」です。



学習指導要領 解説

学習指導要領解説の「第3章 道徳科の内容」には、内容項目ごとに見開き1ページで構成されており、左ページ目には「内容項目の概要（指導者がこの道徳的価値をどう「捉えるべきか）」、右ページ目には2学年ごとの「指導の要点（それぞれの学年はどのような発達段階であるか、どんなことを捉えさせたらよいか）」が書かれています。（以下例、「親切、思いやり」）

指導の要点（以下、引用・要約し、分かりやすくしたもの）

■第1学年及び第2学年

この段階においては、家の周りの人や友だちなどの関わりが次第に増えてくる。
指導に当たっては、幼い人や高齢者、など身近な人に広く目を向けて、温かい心で接し、親切にすることの大切さについて考えを深められるようにすることが大切である。そして様々な人々との触れ合いの中で、相手のことを考え、優しく接することができるようにすることが求められる。

■第3学年及び第4学年

この段階においては、友だち同士の交流が活発になるとともに、活動範囲も広がってくる。一方、他の人々の感じ方や考え方が自分と同様であると思いがちになることもこの時期の特徴と言われている。
指導に当たっては、相手の置かれている状況、困っていることなどを自分のこととして想像することで、相手のことを考え、親切な行為を自ら進んで行うことができるようにすることが求められる。

■第5学年及び第6学年

この段階においては、自他を客観的に捉えるようになってくる。また身近な人々だけでなく、公共の場所など、より多様な人々と接する機会が多くなっていく。
指導に当たっては、どのように接し、対処することが相手のためになるのかを考えた言動が求められる。それらの行為を、児童が接する全ての人に広げていくことも大切である。

身近な人
親切の
大切さ

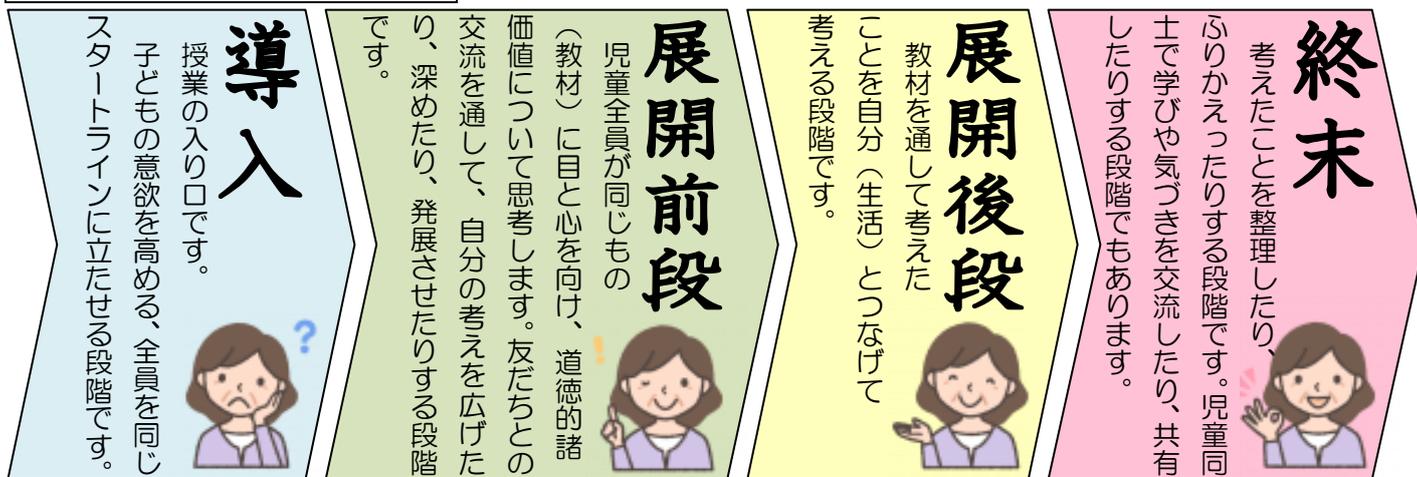
親切の
押し付け
相手の
立場を想像

対象を広げる
本当に「相手の
為」になる
行為とは

このように、2学年間で達成したい「ねらい」が示されており、ここを意識することで「大事なことを落とさない 道徳科の授業」を行うことが期待できます。

今回のテーマは「大事なことを落とさない授業をするためには」です。「大事なこと」を捉えておくことで、授業がブレず（軸ができ）、効率よく授業づくりをすることができます。道徳科は大きく分けて4つのまとまり、「導入」「展開前段」「展開後段」「終末」で授業が構成されています。

道徳科の授業の流れとその内容



4つのまとまりの、どこから取り組んでもよいのですが、家を建てる際に「柱」が重要になってくるのと同じように、「考えさせたい道徳的価値」という柱を据えて行うのが効率的です。

授業づくりの流れとポイント



方法いろいろ① 「考えたい」を引き出す、「スタートライン」を揃える、レディネスを確認する、教材理解に必要な情報を事前に伝える 等

印象に残りやすい② 児童が前向きな気持ち、温かい気持ちで授業を終えることをイメージして検討。説話、絵、写真、動画、詩、歌、児童のふりかえり 等

円滑にシフト③ 今までの自分を振り返る、これからどう在りたいと思うかなど。教材（資料）→自分へスムーズにシフトできる補助発問を精選。

意図をもって④ ペア、自由（歩き回る）、グループ、全体（一斉）、付箋、ホワイトボード、ネームプレート、思考ツール、ディベート など

中心発問を生かす⑤ 中心発問につながる発問。中心発問の前や後に1つ、もしくは1つずつ設定することが多い。揺さぶり・切り返しの発問にも使える。

発問大事⑥ どんな発問にしたら、考えさせたい道徳的価値を多面的に、多角的に考えさせることができるか。（心情を問う？理由を問う？）

まず自分⑦ 学習指導要領解説「第3章道徳科の内容」で「内容項目の概要」を確認し、「指導の要点」で児童の発達段階、考えさせたい道徳的価値を整理する。

【よくあります。こんな失敗…】

- ・導入に時間をかけすぎて45分を越えてしまった…。
- ・予想していた反応が出なくて…。

- ・教材（道徳的諸価値）より印象に残るものになった…（刺激が強すぎる。）
- ・説教「そんなええこと言うてるけど…」

- ・いきなり「みんなは、どう？」と問い、子どもたちはキョトンとして沈黙…。
- ・教材と生活を十分につなげる補助発問ができず、ふりかえりがお話（教材）の感想に…。

- ・活発に活動をしている分、ペア同士の声がぶつかり合って聞こえない。
- ・全体交流をする時間が設けられなかった。
- ・思考ツールなどを活用することに満足し、諸価値等の理解につなげていない…。

- ・場面や状況を問う発問をしてしまった。（国語科の文章の読み取りに類似）
- ・「それで…どうなった？」記憶力を問う発問。

- ・考えさせたい価値とズレたり、ブレたりしてしまった。（指導の要点を軸に検討すれば…）
- ・出して欲しい発言を引き出すために、言い方、尋ね方を変え、児童が大混乱・思考停止に。
- ・揺さぶり、切り返しの発問をやりすぎて撃沈。

- ・改めて確認すると、自分が捉えている価値をかなり違った！（偏ったことを指導してしまった）
- ・4年生（相手の立場を押し量る親切を考える）なのに、1・2年生の指導の要点（親切って大切だな）だった。頑張ったのにトホホ…。



やってみましょう！ー授業づくりチャートー



授業づくりの流れをチャートにしています（上賀茂小学校 実践）。左ページの「ステップ1」から順に取り組むと裏面の流れの通りに授業づくりをすることができます（シンプルですが、板書計画も完成です）。右に書き込んでやってみてください。

子どもの心の声
 「あ～〇〇ってやっぱり大切だなあ」
 「わたしはこんな自分になりたいなあ」
 「〇〇君みたいな考えもあるのか、へえ」
 「ちょっと、やってみようかなあ…」

教師の説話 一人ひとりにお手紙 歌 詩

ビデオメッセージ ムービー 写真

児童のふりかえり ワークシート

ステップ3
終末

道徳的実践意慾

「いいな」「素敵だな」「やってみよう」「になりたい」と感じさせるように。写真やムービーなども「実践意慾」を高めるために、効果的に活用することに留意する。

みんながしている役割(仕事)って？ 「命」って、自分だけのものなのかな？
 授業をする前と考えが変わったことはありますか？ 相手の話をよく聞かないで責めたり、怒ったりしたことはありますか？
 けんかしてしたくないよね？でもしちゃうよね？ どうしたらけんかをしないようにできるでしょう？
 「だめ」って分かっていることをしてしまうのはどうしてなのかな？



自分事として考える

価値の一般化
 「今までの自分はどうか」「これからはどう在りたいか」
 人間（自分）の弱さやずるさに目を向け、自分と対話をする段階

ステップ2
展開後段

指導方法
 中心人物の気持ちを考えるを通して
 問題解決的な学習を通して
 体験的な学習を通して

表現方法・交流方法
 役割演技 動作化 テイパート
 ペアワーク グループワーク など



「中心発問を深める」を念頭において
 中心発問で葛藤や揺さぶりになるもの
 「でもこう思っていたんでしょ？」と切りかえしにつながるもの
 「やってよかった」「がんばってよかった」という充足感を感じさせるもの

基本発問

道徳的価値を考えさせられる場面を選択
 どんなことを考えて(／思っ)いたのでしょうか？
 なぜ〇〇したのでしょうか？

中心発問

ステップ1
展開前段

指導要領解説から、「道徳的価値」を捉える

(例)「親切・思いやり」って？
 → 内容項目の概要を見よう
 どんなことを大切にしたらいい？
 → 指導の要点を見よう

資料への導入
 ・説明が必要な言葉がある
 ・独特な時代背景である
 ・複数の登場人物がおり
 人間関係の把握が難しい



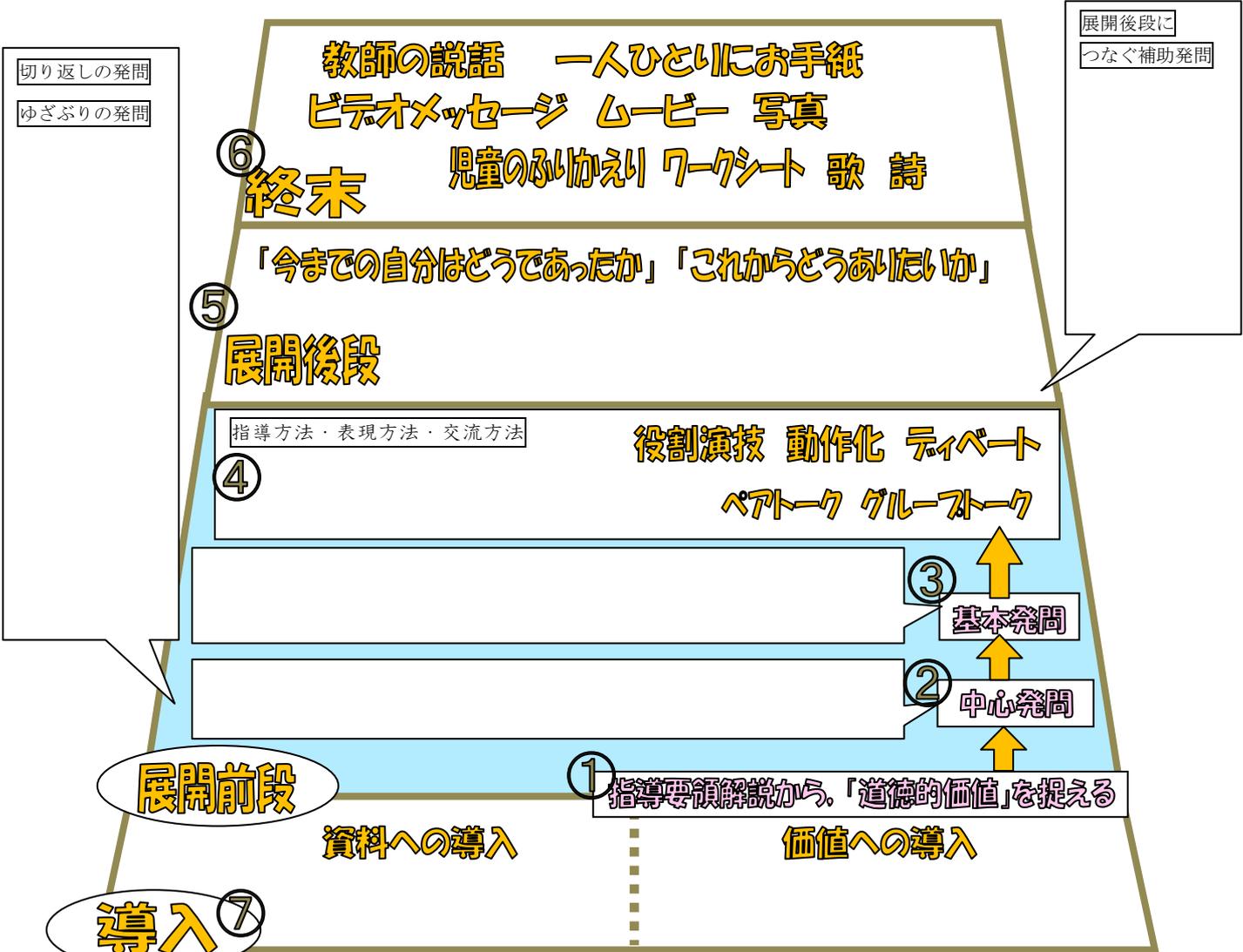
価値への導入
 ・複数の道徳的価値があり
 思考にブレが生じる
 ・「価値」に対する変容を捉えさせる



ステップ4
導入

経験や体験、知識の異なる児童を同じスタートラインに立たせる

主題名 _____ 内容項目 _____ () 「 _____ 」
 資料名 「 _____ 」 (出典)



チャートを反映させた板書計画 (シンプルバージョン)

